広報 高山の文化

No.146 2013.10.4 Culture in Takayama

一般社団法人 高山市文化協会発行

高山市昭和町1丁目 高山市民文化会館内 Tel.34-6550 Fax.34-6877

メールアドレス●mail@takayama-bunka.org
ホームページアドレス●http://www.takayama-bunka.org

（文化会館の催し物案内はこのホームページでご覧ください。）

木版画「四十八滝」 大門孝蔵

第19回 高山市近代文学館企画展
小森素峰と「雲橋社」
10/5(土) 6(日)

「高山市近代文学館企画展」は、郷土の文化の発展に大きな影響を与えた文学者の功績について、作品と経歴を通して紹介し、これからの高山市の文学・文化の発展と向上のため、毎年二回、高山市の協力を得て開催しています。

十九回目の今回は、先に小森家から寄贈された俳諧結社「雲橋社」の第十世宗匠小森素峰が蒐集した俳句資料について、「雲橋社」同人作品を通して、その活動を紹介します。

◇**日時** 十月五日（土）・六日（日） 午前十時～午後五時（六日は午後四時まで）
◇**会場** 高山市図書館「煥章館」一階生涯学習ホール
◇**入場** 無料

「雲橋社について」

雲橋社は、明和八年（一七七一）加藤歩簫が数人の同志と俳諧及び研究のため創立した鴎社を拡充し、五升庵蝶夢の指導を仰ぎ、飛騨俳諧の主流として活躍した俳諧結社である。

歩簫は国学を伴蒿蹊に、俳諧を五升庵蝶夢に学び、また経典仏籍を京都本禅寺日要聖人に学んでいる。安永元年（一七七二）父の経営する私塾を継承して子弟の教育にあたり、雲橋社社中に設置した文庫所蔵の図書一〇〇〇余巻を公開するなど、飛騨文教の振興に大いに寄与した。

（岐阜県ホームページ「雲橋社什物」解説より抜粋）

雲橋社第9世立机式記念写真　左端が在りし日の小森素峰

平成26年 新年市民互礼会のご案内

新年を祝う「市民互礼会」を次のとおり開催します。市民ならどなたでもご参加いただけます。併せて飛騨文芸祭の表彰式を行います。文芸祭にご応募いただいた皆様のご参加もお待ちしております。

お申し込みは、11月10日（日）までに、文化協会事務局へハガキ又はFAXで。名刺交換に代わる芳名録を作成しますので、申込期限をお守りください。

◇日　時　平成26年1月1日（水）午前11時～
◇会　場　高山グリーンホテル
◇会　費　6,000円（記念品・芳名録を含む）
◇申込先　〒506-0053　昭和町1-188-1
（一社）高山市文化協会
（FAX 34-6877）

「岡目一目」

今年の春から夏は異常気象だった。農作物などが大きな影響を受けて、果物農家も対策が大変だったらしい。桃も花の付きが悪く、実も小ぶりになったところが多かったそうだ。

そこで桃太郎の話が子どもの時から気になっていたのを思い出した。桃を包丁で切れば、中の桃太郎の首も切れてしまうのではないかと。その心配に対しては、実はおじいさんとおばあさんは桃を切らずに食べたという話もある。不老長寿の桃を食べた二人は若返って、できた子どもが桃太郎というオチ。

アリとキリギリスの話にも変化球がある。夏の間遊んでばかりいたキリギリスが、冬にぼろぼろになってアリの家を訪ねたら、アリは過労死していたそうな。そこでキリギリスは、アリの残したご馳走で幸せに生き延びたとオチる。

時代によって、人によって、話も変わっていく。あなたならどう変えます？秋の夜長、読書の流れにドンブラコ、ドンブラコと身を任せてみませんか。TVばかり見ていないで。

〈ガンモンモ筆〉

高山の文化を高めた人々 57

飛騨の民俗を調査研究 山田白馬

田中　彰

白馬は高山市天性寺町の生まれで、本名を鎌太郎という。農村各地の失われてゆく飛騨の歌謡と民俗を、大正中期から昭和初期にかけて採録した民俗研究家である。

その中で、「頬かむり小屋の研究」という調査報告を『ひだびと三年三号～四年五号』にかけ八回連載した。頬かむり小屋とは、若者が一般社会人として集落に認められ、大人としての心構えを学ぶ重要な農村の制度であった。小屋の炉の記述では、独身の者が集う小屋は炉の形が三角でないと山の神に障るので、父母と伴の三辺にしているという。この小屋の目的は、若者に村一人前の男としての教養を身につけさせることにあり、夜ばいの習俗も習ったようだ。

山田白馬

白馬は高山市丹生川町や下呂市小坂町の民俗に造詣が深く、「山の子の勧進行事」と小屋での「一升喰い」について紹介している。山の子の勧進行事は益田地方で特に盛んであり、白馬は父に連れられて見た、下呂市小坂町の青竹を火にくべる爆音や、若者の覆面のいでたちの山の子行事は印象深かった、と記している。

一方、小屋の振舞に一升喰いという「餅鏡」を祝う習俗があった。十五歳になった新加盟者に仲間との誓約をさせ、餅をついて山神の座に飾り、後の直会（なおらい）でもっと食べらっしゃいと強制するもので、食べきれず「喰い余す」ことが豊年につながるという儀礼があった。

白馬は、昭和十八年に発足した「郷土芸能研究会」に関わり、「飛騨楽研究序説」（ひだびと三年五号）では烏毛打や一之宮町の神代踊などを紹介し、「飛騨の歌謡と民俗」（ひだびと八年十号）では百四十三頁にわたり、農作業の唄などを紹介している。麦踏唄、桑もり唄、苗採唄、田植歌、田之草採唄、焼畠仕（なぎし）唄、歩荷唄、蕨根叩唄、糸挽唄、機織唄、めでた、鯉の滝のぼりなど、幅広い。

このあとがきで白馬は「たった一唄を聞くために、二度三度、一つの習俗に目鼻をつけ得るまでに年を重ねて数回、同じ村を、同じ古老を訪ねた。―中略―　今日、悪態にも言われる遺風。それも当代の社会制度の上には無くてはならない生活様式であり、また信仰であり、風習であった事も多かろう。」と述べている。

白馬という人はどんな人物であったのか。孫の山田るり子さんと娘の非魚（ひな）さんは、「祖父はいつも着物を着て、物静かで穏やか、温厚であった。自然が好きで、子どもが生まれるたびに、俳句と短歌を作ってもらった。」と語っている。

孫のるり子さんが大事にしている白馬愛用の杖（一之宮町奥で）

白馬は斐太中学を卒業後、飛騨銀行（現十六銀行）に勤め、退職後は、様々な事業を営んだが、成功も失敗もあり、波瀾万丈の人生であった。昭和四十五年頃、白馬は高山市天性寺町から一之宮町「奥」の在所に転居した。白馬の子は男二人、女四人で、一之宮町「奥」の場所は、白馬の二男である山田八束（やつか）が跡をとり、現在は孫の山田るり子さんが住む。

白馬は、飛騨短歌会の初期に参加していて、昭和二十一年発行の『飛騨短歌会報』第二号に次の歌が掲載される。

「寂び妻が求め置きたる閻酒を鳩にか移す雪夜閑けき」（鳩は酒を燗する容器）

＊　＊　＊

明治二十五年（一八九二）十一月十四日生
昭和五十年（一九七五）十一月九日没

丹生川町の正宗寺十五世山田霊林（明治二十二～昭和五十四）は白馬の兄。この兄は十歳の時、正宗寺に入って得度し、曹洞宗宗務庁教学部長を経て昭和三十九年駒沢大学総長、五十年から永平寺の七十五世貫主となっている。

道伝えの日 芭蕉忌句会 俳句募集

伝統と文化の継承を目的に「道伝えの日・芭蕉忌句会」を開催します。次の通り俳句を募集しますので、たくさんご応募くださいますようお願いします。

◇募集作品

☆一般の部　兼題句（菊または虫）と当季雑詠句の二句

☆高校生の部　兼題句（菊または虫）一句

◇応募方法　メール、ホームページ又は郵送で（必ず住所・氏名（ふりがな）・電話番号を楷書で記入。高校生は、学校・学年も）

・郵送先　〒五〇六-〇〇五三 高山市昭和町一-一八八-一 市民文化会館内　（一社）高山市文化協会

・メールアドレス、ホームページは、一ページ目上部をご覧ください

◇締め切り　十月二十日（日）（当日消印有効）

芭蕉忌句会（優秀作の発表、講評、賞品授与）

◇日時　十一月十六日（土）午後一時～

◇場所　高山市文化伝承館

※優秀作品は広報「高山の文化」に掲載します

文化協会後援 催事のお知らせ

（一社）高山市文化協会加盟団体

【第八回　語り部ねっと朗読会】

◇日時　十月十三日（日）午後二時～

◇会場　文化会館小ホール

◇料金　五百円（高校生以下無料）

【飛騨民藝協会　民藝一品展】

◇日時　十月十三日（日）・十四日（月・祝）　午前九時～午後五時（最終日四時まで）

◇会場　日下部民藝館（大新町）

◇料金　市民は無料（要証明書）

【コーラス翠陽　創立二十五周年記念コンサート】

◇日時　十月二十日（日）午後二時～

◇会場　文化会館大ホール

◇料金　千円

【第二十回　隆藤会民謡発表会】

◇日時　十月二十日（日）午後一時～

◇会場　文化会館小ホール

◇料金　無料

第37回 飛騨文芸祭入賞者決まる

◆文芸祭賞　短歌十首　**和田　操**(高山市上川原町)
◆江夏美好賞　該当者なし
◆高山市長賞　現代詩　**稲泉　真紀**(高山市大洞町)
　俳句十句　**下垣内町子**(高山市下岡本町)
◆高山市議会議長賞
　評論　**坂口比斗詩**(高山市七日町2)
　俳句十句　**小林　光代**(飛騨市古川町中野)
◆高山市教育委員長賞
　短歌十首　**武藤　久美**(高山市七日町3)
　小説　**宮本　清則**(高山市石浦町7)
◆一般社団法人高山市文化協会長賞
　短歌十首　**片岡　和代**(高山市名田町6)
　短歌十首　**栃原よ志ゑ**(高山市清見町三日町)
　短歌十首　**打保　洋子**(高山市日の出町2)
　随筆　**細江　錠二**(下呂市小坂町大島)
　随筆　**進藤　拓**(豊橋市小綱町)
　俳句十句　**上田眞穂子**(高山市昭和町1)
　俳句十句　**小県　孝子**(高山市三福寺町)
　俳句十句　**小林　高子**(高山市八軒町1)
　俳句十句　**水口　諄子**(高山市久々野町長淀)
　現代詩　**細江　隆一**(加茂郡八百津町野上)
◆青竜大賞　現代詩　**有永　和**(斐太高校3年)
◆青竜賞　短歌五首　**金子　実礼**(高山西高校1年)
　短歌五首　**清水　美樹**(高山西高校3年)
　短歌五首　**川上まなみ**(飛騨神岡高校3年)
　俳句五句　**古田　絢音**(高山西高校1年)
　俳句五句　**中飯田　怜**(高山西高校3年)
　俳句五句　**木下　大輔**(高山西高校1年)
　俳句五句　**尾上緋奈子**(飛騨神岡高校2年)

表彰式:平成26年1月1日(水)
新年市民互礼会式場にて(会場:高山グリーンホテル)

道伝えの日　お月見歌会　●入選作●

◎課題歌「月」

天位　難産の仔牛やうやく起つを見て畜舎いづれば暁け方の月　堀　甲枝

地位　穂ばらみし田の水加減する農夫月の光に影絵となりて　瀧上　一恵

人位　きどり屋で皮肉屋らしき三日月に嘘をまぶした打明話　江尻　恵子

人位　高熱の孫のか細き手を握り親待つ窓を月光照らす　田村　文子

選者推薦

切り取りてかるた遊びの札にせむまん丸まあるい坂の上の月　武藤　久美

フクシマに微妙な距離の町に住む子らに今宵も月平らかに　尾﨑　珠子

◎自由歌

天位　米寿とはめでたきことか特攻の遺影の友は若さ溢れて　青木　茂

地位　制服のままで林檎を剥く友の横顔少し大人びて見ゆ　武藤　久美

地位　ノー天気と子に言はればそうかも知れぬ眠れぬ夜のありしは言ふまい　西野　紘子

人位　立ち止まり耳を澄ませばサワサワと水の音せり御嶽の山　片岡　和代

人位　山峡(やまかひ)に尺玉花火の音響くこの夏の憂さ晴らすがごとく　小林　伸子

人位　私にも泣きたい日だってあるのです水道メーターの針強く振れ　打保　洋子

選者推薦

紙のピン倒して一位となる吾のVサイン(ブイ)戴るホームの新聞　後藤　滋子

山峡(やまかひ)に尺玉花火の音響くこの夏の憂さ晴らすがごとく　小林　伸子

◎高校生の部(順不同)

【高山西高等学校】

○優秀賞

風を切り月に鼓舞されひた走るツール・ド・フランスを夢に見て　二年　萩谷　晃広

富士の山月の光に照らされて夜の湖に映る山影　三年　中飯田　怜

満月が私の部屋をおもてなし電気を消して月を招待　一年　打保　美波

○入賞

秋晴れの日没早し名月を窓辺に眺め心静かに　二年　横田　優志

ランニング夜中の空に月一つ未来に向かって夢にFIGHTING　二年　上遠野綾祐

紫の雲にまぎれて浮かぶ月時間とともに輝きを増す　二年　中島　綾香

満月と稲穂を揺らす秋風に季節の移ろい感じて止まぬ　一年　森本　和志

下校途中虫の音聞いて帰るとき町なみ照らす満月の光　二年　柚原　沙映

【飛騨神岡高校】

○優秀賞

素直なら「ありがとう」と言えたのに君の隣で三日月仰ぐ　三年　葛谷　里央

三日月は優しい母の目に似てて俯く癖の私をてらす　一年　川上このか

天窓の額におさまる満月や未来を照らす我道しるべ　三年　杉山　聖

嘘ひとつ隠しきることさえできないくらいに満月私を見つめる　二年　尾上緋奈子

○入賞

帰り道一緒に歩くお月様泣いてる私の頭をなでて　一年　森口　成美

車窓から怪しく光る月を見た明日は奇蹟が起こるかもしれない　三年　成島　浩

十五夜の雲でぼやけた月見上げひいばあちゃんの面影浮ぶ　一年　森田　有紀

月を見る幼い子の目光ってる月の中にいるうさぎ探して　一年　石田　琴美

高山の文化を一緒に支えませんか

高山市文化協会は、芸術・学術の普及と向上に関する事業を実施し、地域の文化振興と発展に寄与することを目的として設立された、一般社団法人です。

高山市文化協会の沿革

昭和24年設立。平成元年には、全国に先駆けて自治体とは独立した社団法人として認可され、自治体施設の管理委託制度導入の端緒を作り、平成17年より高山市民文化会館を始めとする各施設の指定管理を受託。常に高山市の文化活動の中心として活動を続けています。

高山市文化協会の活動

●高山文化フォーラムの開催

高山市文化協会が設立された昭和24年当初より開催されている、市民参加の文化祭です。謡、琴、尺八、日舞、洋楽などの芸能の他、美術、写真、華道、文芸の発表の場として、毎年6月に開催しています。

文化フォーラム2012大賞 若柳臣流・久美華会

●飛騨文芸祭

飛騨は、瀧井孝作や江馬修をはじめとする多くの文芸作家を輩出してきた土地柄です。次代に向けての文芸の向上に資する目的で、年1回作品を募集し発表するのが「飛騨文芸祭」です。寄せられた作品は、「飛騨文藝」として小冊子にまとめ、無料で広く市民に配布しています。

●高山市文化芸術鑑賞事業の開催

普段触れることの少ない質の高い文化を鑑賞する機会を市民に提供するため、年数回国内外の一流アーティストや文化人を招いて、市内の各ホールで催しを開催しています。平成24年度は、歌舞伎公演、クラシックコンサート、JAZZコンサート、演劇、ポップスコンサート、落語などが開催されました。

●その他の事業

道伝えの日事業(茶会・短歌会・句会など)の開催や、各種企画展(近代文学館企画展、飾り物展など)の開催などを通じ、高山の文化に寄与できるよう努力しております。

●会員研修旅行

個人ではなかなか行けない旅行先を訪ね、文化への知識を高めるとともに会員同士の交流が深まります。観劇、祭りへの参加、美術展の観覧など、毎年趣向を凝らした旅行を企画しています。

韓国の世界遺産を訪ねて～慶州・扶余

<会費など>

◎年会費　個人:3,000円、団体:6,000円、
　　賛助会員(企 業):10,000円

◇高山メセナメイトと同様の特典(チケット割引など)が受けられます。(団体は2枚、賛助会員は3枚まで割引されます)

◇団体会員は、高山文化フォーラムへの参加資格が得られ、日ごろの成果の発表の機会と他団体との交流を深めることが出来ます。また、当協会後援行事を「広報 高山の文化」にてご案内します。

◇会員研修旅行へご参加いただけます。

◇入会のお申し込みは、事務局にて随時承っております。趣旨にご賛同いただき、高山の文化を支えるお手伝いをお願いします。